

アジア太平洋人口開発閣僚宣言中間評価会議と国連 ESCAP 社会開発委員会 (タイ・バンコク)

10年に一度開催されるアジア太平洋人口会議は、その第6回が2013年9月に行われ、アジア太平洋人口開発閣僚宣言（APMD：Asian and Pacific Ministerial Declaration on Population and Development）が採択された。APMDは10年間隔の中間年である2018年に評価会議が開催されることとなっており、予定通り2018年の11月26日より28日まで、タイ・バンコクの国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）会議場で実施された。筆者は政府団員として参加した。また会議に先立ち、国立社会保障・人口問題研究所は外務省の要請に基づき、本評価会議に提出する日本のカントリーレポート案を作成している。

APMDは貧困削減と雇用、保健、性と生殖に関する保健・サービス・権利、教育、ジェンダー平等と女性の活躍、青少年、高齢化、国際人口移動、都市化と国内人口移動、人口と持続可能な開発、データと統計、という幅広い、多くの項目より構成されているが、参加各国からそれらの状況についてのステートメントが行われた。また今後の人口と開発、人口動態と格差、ジェンダー平等と性と生殖に関する保健と権利、人口と気候変動に関するパネルディスカッションが行われた。

本会議に並行して包括的性教育、若者の性と生殖の保健と権利、気候変動時代のジェンダー平等、イランの高齢化、フィリピンの人口と開発、持続可能な人口開発のための技術革新に関するサイドイベントが開催された。日本政府が推進する「アジア健康構想」に関するサイドイベントも開催され、人口高齢化に応じた介護ニーズ、新技術に関する報告をベースに、参加者と活発な議論が交わされた。

APMD 中間評価会議最終日より重複する形で、11月28日から第5回 ESCAP 社会開発委員会が開催された。「誰一人取り残さない」というSDGsのスローガンのもと、女性、障害者のエンパワーメント、格差是正と社会保障に関する報告やパネルディスカッションが行われた。

APMD 中間評価会議の内容は、<https://www.unescap.org/intergovernmental-meetings/MTR-APPC> より、アジア健康構想サイドイベントは <https://www.ahwin.org/events/accelerating-responses-to-challenges-through-innovation> より、社会開発委員会の内容は <https://www.unescap.org/intergovernmental-meetings/committee-social-development-fifth-session> より閲覧できる。

(林 玲子 記)

2018年数理モデルおよび数値計算における国際会議

本国際会議はインド、デリーにある南アジア大学が主催して行った国際大会であり、デリーで平成30年12月1日～12月3日に開催された。実際、インド以外の参加者は報告者を含めた日本人6名、韓国人1名とハンガリーから2名であった。数名のバングラデシュ留学生・研究者を除くとほとんどがインド人の研究者と学生で構成されていた。報告者は招待され「構造化人口モデルと確率制御理論」というタイトルで講演を行った。この会議は応用数学の色が濃く、数理生物学などで登場する数理モデルの拡張や解析などが主なテーマであった。インドの研究者には新しいことをやろうとする気概があり、活発な雰囲気のある会議と思えた。日本と比べると教授の職や博士の学位を持っていることにとっても敬意を払う文化があるため、報告者の質問と指摘を大変重要視していただいた。この会議では1階常微分方程式による数理モデルを分数階微分方程式（遅い確率過程の分布関数を導くときなどに現れる）に拡張しようという研究が散見したが、数学的な興味が強いためこの拡張の正当性を説明で